

第31回 全国聴覚障害教職員シンポジウム 宮城松島大会

大会テーマ

結成当時の志を振り返り、新たな航海に乗りだそう
〜ろう・難聴の子どもたちにとって魅力ある学びの場を守るために〜



会期 令和6年8月3日(土)~4日(日)

会場 宮城県市町村職員共済組合保養所 ^{まつしま}パレス松洲
松島町文化観光交流館アトレ・るHall

主催 全国聴覚障害教職員協議会
後援 文部科学省 宮城県教育委員会 全国聾学校長会 一般財団法人全日本ろうあ連盟
(予定) 一般社団法人宮城県聴覚障害者協会
協力 北海道・東北地区聴覚障害教職員懇談会

ご挨拶

全国聴覚障害教職員協議会
会長 松本大輔

今から30年前の夏、全国聴覚障害教職員協議会はここ松島にて産声をあげました。あれから年月が流れ、こうして30周年を迎える節目の年に、思い出の松島にて再びシンポジウムを開催いたします。皆様のご支援にて今日この日を迎えられることに、心より厚く感謝を申し上げます。

あれから30年一、私たちろう・難聴教職員を取り巻く教育環境は大きく変わってきています。ろう学校・聴覚支援学校における情報保障の整備が進み、ろう・難聴教職員が研修を受けたり会議で発言したりできるようになりました。喜ばしいことに、学校管理職として活躍するろう者・難聴者もおられます。ただ、一方で、ろう学校における児童生徒数の減少現象が全国的に広がっており、ろう学校の単独存続が懸念される局面も現実問題になってきています。また、人工内耳装用児童生徒の増加、手話の表現形態の多様化が進んでおり、そのことによつてこれまで以上にろう学校の指導上の専門性が求められています。今こそ、ろう・難聴教職員の役割がより熾烈に問われているように思われます。

ろう教育界における課題の多様化をふまえて、これまでの全聴教のあゆみに焦点をあてながらろう教育の今後について有識者からご提言いただく「30周年記念パネルディスカッション」、5つのテーマに沿って研修していただく「研究協議分科会」、また「30周年記念パーティー」を企画いたしました。

東日本大震災を乗り越え力強く歩まれている東北・松島の地に結集し、設立当時の志と原点を振り返りつつ、新たな歴史を紡いでいきましょう！

皆様のご参加をお待ちしております。

大会要項

開催目的 全国のろう・難聴教職員が一堂に集い、きこえる教職員とともに教育現場におけるさまざまな課題と実践成果を研究協議することによって教職員としての資質を高め、広い知見と豊かな感性を身につけることを目的とする。

参加資格 全国の教育機関に勤務するろう・難聴教職員およびきこえる教職員、ろうあ団体会員、手話通訳関係者、聴覚障害教育に関心のある者、将来教職員をめざす者(大学生以上)

参加形式 **現地開催**

※オンラインはありませんので、ご了承ください。

大会参加費

正会員・賛助会員	2日参加 7,500円	1日参加 4,000円
一般（非会員）	2日参加 9,500円	1日参加 5,000円
学生（会員）	2日参加 4,000円	1日参加 2,000円
学生（非会員）	2日参加 5,000円	1日参加 2,500円

<別オプション>

宿泊^{※1}・30周年記念パーティー^{※2}参加 … 17,000円

日帰り ・30周年記念パーティー^{※2}参加 … 8,500円

弁当 1,500円（2日目にお弁当をご希望の方）

大会誌 300円（紙媒体をご希望の方）

（※1）1泊2食付き。全聴教旗揚げの地、パレス松州にてパーティーと宿泊を皆様とお楽しみ下さい。

（※2）夕食（松州膳コース）・飲み放題付き

大会日程

日	時間	内容
【大会1日目】 8月3日（土）	12:00～12:45	受付
	12:45～13:00	開会式
	13:00～15:50	パネルディスカッション
	16:00～17:00	定期総会
	18:00～21:00	30周年記念パーティー
【大会2日目】 8月4日（日）	8:45～9:00	受付
	9:00～12:00	分科会
	12:00～13:00	昼食・休憩
	13:00～15:00	分科会
	15:10～16:00	閉会式

会場

大会1日目（8月3日） パレス松州 芙蓉の間

大会2日目（8月4日） パレス松州 芙蓉の間

松島町文化観光会館アトレ・るHall 講座室・研修室

プログラム

記念企画パ^oルティスカッション 日 時：8月3日(土) 13:00~15:50
会 場：パレス松州 芙蓉の間

ろう・難聴の子どもたちの学びを守るために ～これまでの歩み、そしてこれから～

パネラー

- 武居 渡 (金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授)
中澤 操 (秋田県立リハビリテーション・精神医療センター耳鼻咽喉科医)
前田 浩 (大阪ろう就労支援センター 理事長)

司 会

松本 大輔 (全国聴覚障害教職員協議会 会長)

ろう学校における幼児児童生徒の数は年々減少している状況が全国的に広がっています。少子化の影響もありますが、インクルーシブ教育の理念の広がりとともに、子どもや保護者の学校選択肢が増えたことも一因と考えられます。見方を変えれば、子どもや保護者の学校選択肢からろう学校が除外されつつあることを意味し、かつ、ろう・難聴の子どもたちのコミュニティの継続に関わる重大な問題でもあります。果たして、ろう学校はろう・難聴の子どもたちにとって、魅力のある学校になっているのでしょうか。私たち、ろう・難聴教職員の担う役割は何でしょうか。

私たちを取り巻く環境や社会も変化しています。障害者差別禁止法によって合理的配慮を求めやすくなり、教務主任や学部主事、管理職といった重責な職務を担うろう・難聴教職員も増えてきました。その一方で、ろう学校以外の教育現場で働くろう・難聴教職員の割合が増しており、今後もそのような傾向は続くであろうと推測されます。ろう・難聴教職員が配置される教育現場において、より働きやすい職場環境にしていくためには、当事者自身が周囲の理解を広げたり人間関係や協力体制を築いたりすることに労力を費やさなければならぬでしょう。

1994年の夏にここ松島にて、先輩方は希望をもって全聴教を立ち上げました。あれから30年の年月が流れ、ろう・難聴の子どもたちの実態や家庭環境の変化、ろう教育の現場における専門性の維持と働き方改革の推進など、ろう教育の現場を取り巻く社会や環境も劇的に変化しています。それでも、目前のトピックにとらわれることなく、変わらぬもの(不易)を再発見することで、新たな道を見出すことができるかもしれません。

さあ、私たちと共に見つめ、考え、そして、語りましょう！

30周年記念パーティー

8月3日(土) 18:00~21:00
会 場：パレス松州 芙蓉の間

全国のろう・難聴教職員および教育関係者の親睦を深め、かつ結成メンバーとの交流を深めるために、30周年記念パーティーを企画しております。是非とも結成当時のメンバーの思いを聞いて(見て)みませんか。そして、今後のろう教育について語り合ってみませんか。これから教職員を目指す方や保護者の方も大歓迎です。多くの参加をお待ちしております。

第1分科会

デフフッドの視点を踏まえた授業実践 ～ろう・ろう重複児の豊かな学びを目指して～

助言者：松崎 文（国立大学法人 宮城教育大学 教授）
座長：戸田 康之（埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 教諭）
佐々木 寿子（秋田県立聴覚支援学校 教諭）

デフフッド（Deafhood）とは何か。宮城教育大学の教授である松崎文先生によれば、マジョリティ（聴者）社会の中で、マイノリティ（ろう者）として生きていく上で、自分はどうかあるべきか探求（自分探し）をしていく過程のことを指しています。ろう学校では、小学校や中学校及び高等学校の学習指導要領に準じた教育を行う教育課程を履修することになっています。しかし、当然ながら、それらの教育課程や教科書はマジョリティ（聴者）の視点で編纂されており、ろう者として生きていくための“学びにつながる”言葉や歴史、文化、情報などは皆無に近い状態です。それどころか、福祉や人権の視点から手話や障害者を取り上げられることがほとんどです。また、教科書だけではなく、ろう学校における生活様式や指導内容等も、聴者視点で形成されていることが多くあります。

松崎先生よりレクチャーを受けた上で、グループワークと各グループの発表を行います。そして、意見交換・情報交換を行うことで、ろう児やろう重複児の豊かな学びを支える見識をさらに深めていきましょう。

※ 第1分科会は手話を使った教科指導を取り上げて行いますので、あえて情報保障はつけないことをご了承ください。

第2分科会

ひとりひとりの命が輝く学校とは ～窮屈な職場を変えるためのヒント～

助言者：坂本 久美（人の輪と心を育むひまわり教室 主宰）
座長：羽生 薫（宮城県立支援学校女川高等学園 教諭）
新垣 聖子（沖縄県宜野湾市立真志喜中学校 教諭）

2024年4月に「改正障害者差別解消法」が施行され、合理的配慮の提供は全ての学校で義務となりました。しかし、ろう・難聴教職員にとっての職場環境はどうあるべきか、これまでと何が変わるのか・・・疑問や悩みはつきません。そこで、いつも児童生徒を中心に奮闘している私たちろう・難聴教職員の働き方、輝く命についてスポットをあてて考えてみませんか。子どもたちがのびのびと学校生活を送るためには、私たち教職員が笑顔でやる気を失うことなく、命輝く限り、望ましい教育が成り立つのではないのでしょうか。

職務環境が多様化している今、情報保障という視点のみならず、ひとりひとりの教職員が輝くためにどうしたらいいのか、日々の悩みを打ち明けてみませんか。自分自身をみつめ直す機会です。

前半は、アイスブレイクを通して心をほぐした後、KJ法で悩みや解決方法を共有（アナログ式・ICT式）後半は、座長の話題提供のあと、ポスターセッションによる事例からみんなで考えを共有し、助言者から講評をいただき、ひとりひとりが主役として輝く分科会を目指します。

第3分科会

きこえない・きこえにくい乳幼児・幼児とその保護者への支援のために ～障がい認識、コミュニケーション支援を中心に～

助言者：武 居 渡 （国立大学法人 金沢大学 教授）
座 長：小佐野 貴恵 （山梨県立ろう学校 教諭）
川 畑 賢司 （埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 教諭）

人工内耳の普及だけでなく、保護者の共働きの増加により地域の保育園や幼稚園に通う乳幼児、幼児が増加し、ろう学校の在籍数が減少傾向にあります。また、ろう学校幼稚部に在籍しているものの、送迎サービスを利用する等、保護者と話をする機会がなかなかとれないという例もあります。そのため、保護者の障がい認識、コミュニケーションの支援が十分にできないという状況が生じています。

ろう学校における現状や、特別支援学校坂戸ろう学園の保護者支援の取り組みを知り、その上で、私たちにできる支援方法について一緒に考えていきませんか。早期支援、幼児教育にかかわっている方々はもちろん、早期支援について聞いてみたい、きちんと知りたい、当事者として話してみたい方もぜひご参加ください。

※参加申込者には、事前に早期支援についてアンケートのご協力をお願いいたします。

第4分科会

卒業後、自分らしく、心豊かに生活するために、今できることは？ ～学校と寄宿舎との連携、取り組みについて～

助言者：木村 美津子 （筑波大学附属聴覚特別支援学校 寄宿舎主任指導員）
座 長：松山 智 （東京都立葛飾ろう学校 教諭）
小川 雅 容 （栃木県立聾学校 寄宿舎指導員）

ろう・難聴の子どもたちが、卒業後、自分らしく、心豊かに生活していくためには、自分の課題や地域社会との関わりに気付き、他者と協働しながら解決していく力が必要となります。具体的な要素として、例えば、自分を知る、困り感に気付く、他者に働きかける力といった問題解決力やコミュニケーションスキル等が挙げられます。

前半では、実際に教育現場に携わっている教職員より、レポート発表を行います。後半では、ろう・難聴の子どもたちが、自己肯定感を高め、自分らしく生活していくために、私たちろう難聴教職員がこれまでに行ったこと、今実行していることを、参加者で共有しましょう。

そして、学校や寄宿舎の中で、私たちができる指導・支援の在り方はどうあるべきか、一緒に考えていきましょう。

第5分科会（特別講座・歴史入門講座）

夢を追い求めたろう教育の先達に学び、明日につなごう ～ろう教育と手話の歴史と先人たちの志を知り、今日の教育現場を考えよう～

講師：前田 浩（大阪ろう就労支援センター理事長、
全国聴覚障害教職員協議会初代会長）

司会：中村 孔一（福島県立聴覚支援学校平校 教諭）

1878（明治11）年、古河太四郎によって京都盲啞院が設立されました。これにて我が国の聾教育が始まり、東京、函館、長崎、拾石（現、豊橋聾学校）、大阪と相次いで設立された聾学校（当時は盲啞院・訓盲院と呼称）は、ろう者コミュニティと言語としての手話を生み出しました。

今日のろう者の生活文化の広がりや社会参加への道は、これら聾教育機関を生み出し発展させた先人、またろう者当事者たちによって切り拓かれてきました。この講座では、彼らの足跡をたどりながら1世紀半を経た今日の地点に立って、ろう教育現場の手話と日本語習得をめぐる課題、子どもたちの多様化、ろう学校によせるニーズと社会的期待をめぐって自由に意見交換しましょう。

本会、全聴教はこの宮城県松島にて30年前に結成されましたが、当時の教員たちは手話導入と日本語教育に関する視点と方法論に悩み、研究協議してきました。それは今日も古くてなお新しい教育テーマであり、私たちはろう学校の魅力や専門性のあり方を問い直し、子どもたちの集団（コミュニティ）を守り保っていくために、過去と現在、現在と未来を行き来しながら共に考えましょう。

アクセス

■会場周辺図

パレス松洲ホームページ

パレス松洲ホームページをご覧ください。
<https://www.palace-matsushima.jp/about/access/>

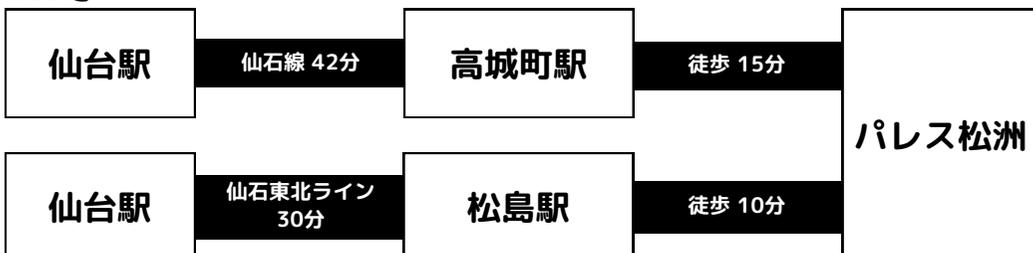


■アクセス方法

お車で

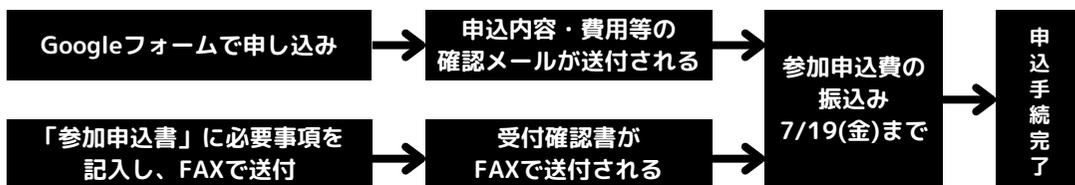


JRで



参加申込

Googleフォーム（スマートフォン可）より申込できます。
なお、FAXによる申込も可能です。



【会員区分】について

2023年度会費（2023年6月～2024年5月）を納めていない方は「一般参加」扱いとさせていただきます。ただし、大会当日に全国聴覚障害教職員協議会の受付にて入会される方は会員扱いとなりますので、入会を希望される方は参加費の「入金予定」に○をつけてください。

【参加希望分科会について】

- ご希望の分科会を必ず第3希望までご記入ください。申込多数や人数の関係で調整させていただきますので、ご了承ください。
- 一般（非会員）・学生・保護者の方は、第1・5分科会をお願いします。
- お申し込み後の分科会希望の変更はできませんので、ご了承ください。

※参加申込にご記入いただいた個人情報は、本大会運営のみ使用し、それ以外の目的には一切使用しません。

参加申込先

Googleフォームによる申込（推奨）



FAXによる参加申込書送付先

FAX 03-3889-0365

第31回全国聴覚障害教職員シンポジウム
宮城松島大会事務局 宛

参加費振込先

ゆうちょ銀行からお振込みの場合

口座番号： 記号 18410 番号 25652251
口座名義： 全国聴覚障害教職員シンポジウム

他金融機関からお振込みの場合

ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）
店名：八四八（ハチヨンハチ） 店番：848
預金種目：普通預金 口座番号：2565225

【大会に関する問い合わせ先】

第31回全国聴覚障害教職員シンポジウム宮城松島大会事務局
大会総括：全国聴覚障害教職員協議会 会長 松本大輔
大会事務局長：全国聴覚障害教職員協議会 事務局長 中村孔一
E-mail：zencyokyo@gmail.com

フリガナ					
氏名			男 / 女 / その他	ろう・難聴者 / きこえる人	
参加区分	正会員 賛助会員 一般(非会員) 学生(会員) 学生(非会員)				
所属	学校名 団体名				
	所属	幼稚部 小学部 中学部 高等部 専攻科 管理職 寄宿舍 事務部 教職員OBOG 学生 保護者 その他 ()			
住所 連絡先	〒 _____				
	E-mail				
	FAX				
→ 当てはまる参加区分、参加予定や購入希望 に○をつけ、合計金額をご記入ください。	参加予定日を教えてください。		8 / 3 ・ 8 / 4		
		正会員・賛助会員・入会予定	7,500円 (2日参加)		
		正会員・賛助会員・入会予定	4,000円 (1日参加)		
		一般(非会員)	9,500円 (2日参加)		
		一般(非会員)	5,000円 (1日参加)		
		学生(会員)	4,000円 (2日参加)		
		学生(会員)	2,000円 (1日参加)		
		学生(非会員)	5,000円 (2日参加)		
		学生(非会員)	2,500円 (1日参加)		
		宿泊・30周年記念パーティー(夕食・飲み放題付) 17,000円			
		30周年記念パーティー(夕食・飲み放題付) 8,500円 ※宿泊されない方			
		弁 当	1500円 ※2日目にお弁当をご希望の方		
	大会誌	300円 ※紙媒体をご希望の方			
合計金額		_____ 円			
希望分科会	第1希望	第_____分科会	(希望に○→) 情報保障	<input type="checkbox"/>	読み取り通訳(手話→音声)
	第2希望	第_____分科会		<input type="checkbox"/>	要約筆記
	第3希望	第_____分科会		<input type="checkbox"/>	触手話
			<input type="checkbox"/>	その他 ()	
その他、何か配慮を希望することがあれば書いてください。					